

F-42 マレーシア連邦、シンガポール共和国およびタイ王国の教育と特に女子教育に対する協力の可能性について 白梅学園短大 林 潔

(1) 目的 標記の3国は1つの文化経済圏を形成し、わが国の南東アジア地域に対する文化、教育協力の1つの中心地域とみなしうる。本報告では当該地域の教育の現状と、特に女子教育に対する協力の可能性について考察したい。

(2) 略史 (A) マレーシア連邦成立1963 (B) シンガポール独立1965 (C) タイ憲政1932

(3) 近代教育 (A) 1815 Christian School for Chinese Boys 設立 1817 Penang Free School (少女) 設立 1935 Malay Women Teachers Col. 設立 1959 Univ. of Malaya in Kuala Lumpur 設立 (1962 マラヤ大学に改称) (B) 1823 Singapore Inst. 設立 1844 Raffles Girls' School 設立 1949 Univ. of Malaya 設立 (1962 Univ. of Singapore に変更) (C) 1871 キュラロンコン王(ラマ5世) グランド・パレス内に学校を設立, Suan Anan School 設立 1917 キュラロンコン大学設立 1934 タマサット大学設立

(4) 現状 (1) 社会的地位 (2) 教育、女子教育の現状 (3) 社会開発への参加 (大学〔university および相当のもの〕数は、(A) 3、(B) 2、(C) 10 である。)

(5) 課題と協力の可能性 (1) 課題 ① 女子成人教育 ② 成人女子が教育を受け得る条件の整備 ③ 能力ある女子の指導

(2) 協力の可能性 ① 教員養成 ② 成人教育あるいは生涯教育についてのメディアの交換 (たとえばアメリカの女子再教育〔継続教育〕計画は1つの方法論を提供すると思われる) ③ わが国の女子教育事情の紹介(英文) ④ 学生相談のメディアの交換